

一気に大雪様相となってきました。これまでご案内しましたとおり、ハウスの保守に万全を期してください。また、育苗用の小さなハウスはパイプ径が小さいので、特に注意して下さい。なお、ビニールが外してあるハウスでも、低温により雪がパイプに固着し雪がのって倒壊することもあるので、要注意です。

ハウスの共済に加入している場合でも、ハウス内に作物が栽培されていない場合、倒壊しても保障の対象にはなりませんので気をつけてください。

ハウス保守管理

これまでの巡回において、ハウスの支柱たてなどの補強がされているハウスは全体の 2 割程度で、殆どのハウスは何の対策もして有りませんでした。ハウスの補強をしておく、気持ち的にも随分安心できますので早急をお願いします。保守管理の要点はこれまでもご案内しておりますが改めて整理しておきますので参考としてください。

- (1) 何の補強もしていないと、パイプハウスの場合 20 cm の積雪で倒壊の危険が高まります。
- (2) 補強対策の要点は
 - (ア) ハウスに支柱を設置する。支柱間隔は狭いほどよいが目安としては 5m 間隔以内とします。
 - (イ) ハウス内に家庭用の石油ストーブを設置し、屋根面の雪の滑落を促進します。目安として 15 ~ 20 m 置きに一基摂津する。(不完全燃焼を起こさないよう点検する。)
 - (ウ) ハウスサイドの雪が、ハウスの肩部分を越えてくると、雪が滑落しなくなり、屋根面に積もるので、常にハウスサイドの雪は排除しておく。
 - (エ) ハウスが潰れる過程では、ハウスが横に広がるので、ハウスの肩部分を、ハウスの内側で針金などで引っ張っておくと良い。
- (3) 倒壊の危険がある場合はハウスのビニールを切り裂きます。単にスジを入れただけでは雪は落ちないので、パイプに沿って、額縁状に切り取ります。このときハウスのバランスを崩さないように片側に集中しないよう配慮して作業を進めます。
- (4) 倒壊の危険が差し迫った場合は危険ですので命第一に考えハウス内には入らないようにして下さい。
- (5) 融雪パイプを設置しているハウスは早くから散水を始めてください。雪がトンネル状に消えても、その上から積もって行きます。また、融雪により水位が低下して、水が出なくなる場合もありますので、時々点検してください。
- (6) ハウスビニールが葉って無くても、低温で雪がパイプに固着し倒壊に至ることがありますので、点検して叩き落してください。

